



令和5年度 高度工芸技術者養成研修事業

中間報告会

4つの分野についてそれぞれ12ヶ月間研修を行います
中間報告会では、現地点での研修生の作品を展示し、今後の課題の克服に向けた
取り組みについて報告を実施します

◆日時：2023年9月30日(土) 9:00~16:00

◆場所：おきなわ工芸の杜 展示室 (豊見城市字豊見城 1114-1)

主催：沖縄県工芸振興センター

運営：NPO 法人沖縄県工芸産業協働センター

お問い合わせ：NPO 法人沖縄県工芸産業協働センター 電話 098-996-9275(高良)

中間報告会について

高度工芸技術者養成研修事業は、県独自の産業として継承発展してきた伝統工芸の担い手の育成を目的としています。4月からスタートし9月で半年を経過し研修期間の中間点に到達しました。研修生の皆さんがこれまで制作した成果品を展示し、今後の課題の克服に向けた取り組み等について報告会を実施致します。モノ作りに対するモチベーションを高め、一層の創作活動を推進することを目的としています。

織物



沖縄の伝統織物は琉球時代には海外との交易品をはじめとし、庶民の間でも衣服とするなど幅広く使われてきました。各離島を含む、各産地ごとの技法と特徴があります。研修ではこれらの全般知識を学びます。

講師コメント

工芸の杜の周辺から採取した植物での染織実験からスタートし、沖縄の伝統技法である両面浮花織、経緯緋（マシン、絵図緋、手結緋）を習得出来ています。

後半の自由作品では、習得した技法を用いて着尺の制作に取り組みます。研修生の6ヶ月の取り組み成果をご覧ください。

紅型



びんがたは琉球王府の儀礼用として、また、伝統舞踊の衣装として染められてきました。図案はもとより南国の島らしい鮮やかな色使いが特徴です。研修ではこれらの全般知識を学びます。

講師コメント

本年度の紅型研修生は道具制作に始まり、タペストリー・六通帯・着尺制作と進みます。中間展では六通帯まで各研修生の取り組みの成果をご覧ください。

漆芸



琉球漆器は琉球王府の儀礼用として、また海外との貿易品として作られてきました。デイゴなど沖縄独自の木素地を使い、貝を使ったきらびやかな加飾(螺鈿)などが特徴です。研修では、椀・箱・手板・乾漆の製作を通してこれらの全般知識を学びます。

講師コメント

漆芸研修では39工程に及ぶ髹漆技法を瓦地の粉やニービなどの県産材を用いて研修を行い、琉球漆器独自の技術習得をめざしております。研修生の6ヶ月間の成果を是非ご覧ください。

木工芸



沖縄の木工芸は漆器や楽器の三味線の木地づくりが歴史的な起こりです。研修ではこれに加え、沖縄に産する木材の活用という切り口で研修カリキュラムを組み立てています。木材の乾燥や加工など材料特性を踏まえ、研ぎや組手練習に始まり、小物製作、チェスト等の箱物・テーブル・イスの脚物等を学びます。

講師コメント

伝統的な手作業と機械加工による作品作りまた幅広い木工芸技術・指物・旋盤・柄組(ホソグミ)等を実践的に学ぶ事により、それぞれの目指す道に進める基礎を身につける事を目標に教えています。